

気候変動に適応する強靱な新養殖事業－Ⅱ

真珠

渥美貴史・岡野健次・坂下奨悟・竹内泰介

目的

本事業では、真珠養殖業の気候変動への適応を目指して、産官連携の種苗生産プラットフォーム「三重県アコヤシードバンク」のもと、様々なアコヤガイを系統保存するとともに、選抜した種苗（試作貝）の飼育試験を養殖業者と行うことで気候変動に適応できる種苗の安定生産につなげることを目的とする。

方法

1 アコヤガイ系統保存

水産研究所が保有する6つの系統について、表1のとおり系統保存を目的とした種苗生産を行った。各系統の種苗を9月下旬から10月初旬に飼育協力者（県内真珠養殖業者）2名ずつに配布し、県内漁場で飼育した。11月15日に各系統のへい死状況について飼育協力者から聞き取りを行った。

表1. 系統保存の親貝数，採卵日

系統	親貝数	採卵日
英虞湾	♀：17個体	7月11日
	♂：22個体	
九鬼	♀：11個体	7月16日
	♂：14個体	
二木島	♀：3個体	7月11日
	♂：5個体	
京都	♀：15個体	6月13日
	♂：23個体	
大村	♀：21個体	6月13日
	♂：14個体	
西表	♀：3個体	6月13日
	♂：4個体	

2 アコヤガイ選抜種苗飼育試験

水産研究所が保有する3つの系統（英虞湾，九鬼，二木島）の親貝を用いて、表2のとおり計9種類の試作貝（ピース貝）を生産した。

各試作貝について、9月下旬から10月初旬に試験協力者（県内真珠養殖業者）1～3名ずつが県内漁場で飼育した。11月15日に各系統のへい死状況について飼育協力者から聞き取りを行った。

表2. 試作貝の親貝数，採卵日

種類	親貝の系統	親貝数	閉殻力	黄色度	採卵日
試作ピース1	♀：英虞湾	1	5kgf	23.3	6月11日
	♂：英虞湾	1	5kgf	10.3	
試作ピース2	♀：英虞湾	1	5kgf	18.1	6月11日
	♂：英虞湾	1	5kgf	10.3	
試作ピース3	♀：英虞湾	2	4kgf	23.8	6月18日
	♂：英虞湾	1	4kgf	16.8	
試作ピース4	♀：九鬼	1	3kgf	24.1	6月6日
	♂：英虞湾	1	6kgf	13.0	
試作ピース5	♀：九鬼	2	3kgf	23.3	6月6日
	♂：英虞湾	1	6kgf	13.0	
試作ピース6	♀：二木島	2	3kgf	21.1	6月25日
	♂：英虞湾	2	3kgf	29.3	
試作ピース7	♀：二木島	1	3kgf	25.5	6月6日
	♂：英虞湾	1	6kgf	13.0	
試作ピース8	♀：英虞湾	1	4kgf	28.3	6月18日
	♂：英虞湾	1	4kgf	16.8	
試作ピース9	♀：英虞湾	1	4kgf	22.9	6月6日
	♂：英虞湾	1	6kgf	13.0	

結果及び考察

1 アコヤガイ系統保存

11月15日時点における各系統の飼育協力者2名へのへい死割合の聞き取り結果は次のとおりであった。英虞湾系統は、0.5割と2割のへい死があった。九鬼系統は、5割と8割のへい死があった。二木島系統は、6割と9.5割のへい死があった。京都系統は、1割と8割のへい死があった。大村系統は、0.5割と9割のへい死があった。西表系統は、8割と9割のへい死があった。各系統ともに2名の真珠養殖業者がそれぞれ別の漁場で飼育を行った。6系統のうち英虞湾系統のへい死割合は飼育協力者2名とも低く、西表系統は2名ともに高かった。他の系統については飼育協力者によってへい死割合に差があった。各系統の生残貝については飼育を継続し、次年度以降に系統保存する親貝として用いる予定である。

2 アコヤガイ選抜種苗飼育試験

11月15日時点における各試作員のへい死割合は次のとおりであった。試作ピース1の試験協力者は2名であり、へい死割合は0.5割と5割であった。試作ピース2の試験協力者は1名であり、へい死割合は0.5割であった。試作ピース3の試験協力者は3名であり、へい死割合は3割、4割と5割であった。試作ピース4の試験協力者は1名であり、へい死割合は1割であった。試作ピース5の試験協力者は2名であり、へい死割合はともに0.5割であった。試作ピース6の試験協力者は2名であり、へい

死割合は4割と9割であった。試作ピース7の試験協力者は1名であり、へい死割合は10割（全滅）であった。試作ピース8の試験協力者は2名であり、へい死割合は7割と10割（全滅）であった。試作ピース9の試験協力者は2名であり、へい死割合は0.5割と10割であった。親貝に用いる系統によるへい死割合に明確な傾向はなかった。

生残貝は飼育を継続し、次年度以降にピース貝として用いた真珠生産試験を行う予定である。